



共同通信



2010年8月22日 168(378号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 68 新潟からお久しぶりです

西宮には3年半いました。

17年前の秋、夫の転勤で新潟から西宮へ。翌春就園を控えた息子と6ヶ月の娘を連れての初めての関西は、なかなか心細く感じたものです。行ってまもなく幼稚園探し。門戸岡田町の団地でいつも半袖短パンの元気な共同っ子に出会い、「給食なし・制服なし・園バスなし」の幼稚園と聞いて見に行ったのが縁でした。

仕事も辞め子育て真っ最中で異国の地に飛び込んだ私も、あっという間に共同の魔法にかかってしまいました。園で出かけたという場所に親子で遊びに行くと、まず外れはありません。場所だけでなく遊び方の百

科事典がそこにありました。広田神社、関学に始まり、夏の大井戸公園、ウォーターランド(・・・バラ園は伊丹だったかなあ)、秋の甲山森林公園、冬の宝塚ファミリーランド、えべっさん・・・淡路島と滋賀の雪山は遂に親の方が行けずじまいでしたが。

毎日のように持ち帰るおたよりもずいぶん励まされたものです。担任の先生の近しい目、順子先生のあったかい目、園長先生のおっきな目、それぞれの視線で子どもたちの「今日・現在」が綴られたおたよりは、初めて手を離れた子どもの日常を余すところなく伝えてくれました。学校のプリントへの固有名詞や写真の

時代にふり回されるのではない
あの時 心を躍らせて生きた
後悔に 身をふるわせたこともある
笑い 泣き 歯ぎしりをした
今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい

掲載まで親の承諾をとる今のご時世では考えられない子ども同士のエピソード満載のおかげで、園のみんなが近しく愛おしく思える、そんなおたよりでした。順子先生の数々の宝言の中でも、「親が言うように子どもは育つ」は長く私の戒めになり、「どうせうちの子は」と思わず、ささやかでもいいところを見つけてほめたおして育てる努力をしてきたつもりです。ひとさまから見れば、ずいぶん親ばかだったと思いますが。

3年目には娘もぼっぼ。家族4人でどっぴり共同の毎日でした。そして息子の卒園と同時に新潟に帰ることが決まり、役員をさせていただいたこともあり卒園式でのあいさつとともに、我が家の西宮での生活にもピリオド。あの地震をはさみ、まるで息子の「共同ライフ」に合わせたような西宮での3年半。たくさんの思い出ができたなあ、ちゃんちゃん。・・・だったはずなのですが、それから10年後、なんと息子が神戸の大学に行きたいと言い出すではありませんか。

雪国新潟の文化圏は、北海道・東北・東京は「ふむふむ」でも、関西は「なんで～？」が通念。「幼稚園のとき住んでたんだわ」なんて言っても誰に理解されるでもなく。でも本人の「オレのバックボーンはあの共同でできたんだよね」のセリフに妙に納得。要は、園長と順子先生が好きなのねと、あとは親として応援するだけで

した。

昨年の3月9日、果敢に神戸まで合格発表を見に行ったのに夢やぶれた日。報告に行った共同の園庭にははっばのときの仲間が集まってくれていました。息子だけでなくみんなの18の春、いろんな未来が広がっている一人ひとりに共同の園庭は何よりふさわしく優しくあったに違いありません。そして1年後のまた3月9日、やっと合格の報せができ、この春からまた共同に出入りできる身分になった息子、初めてのこの夏の帰省で「すっかり園長の手下だね！」とかわかれて、笑顔です。

最近大好きな宮部みゆきの『小暮写真館』を読みました。新刊はほとんど図書館で借りて済ませるのですが、菜の花と桜のコントラストがあまりに美しい表紙に手が伸びたまま、気がつけば購入していました。この表紙の春満開の小さな駅の写真が、クライマックスでまた効いてくるのです。主人公はデビュー作『我らが隣人の犯罪』を思い出させる男子高校生花菱英一くん。4部立てで、主人公花ちゃんが3枚の心霊写真の謎を解きながら「三つの経験値を積んでいく」（著者いわく）。そして4つ目の章でどんなふうに関わり行動するかが肝です。心霊写真とは言っても、決してホラーではなく、辛い社会派でもなく、ある意味「ゆるい青春小説」のようですが、矢継ぎ早に繰り出されるエピソード

ソードや誰ひとりおろそかにしない登場人物の立体的な書き込みが、ささやかな物語を奥深くスケールの大きな物語にしています。読んでいる途中で順子先生のお父様の訃報に接したとき、「生きている者には、ときどき死者が必要になる」というセリフが思い出されました。

数年前には、有川浩『阪急電車』の今津線の路線図付きの新聞広告に惹かれて思わず購入。鉄道小マニアの息子とわくわくしながら読みました。そういえば『小暮写真館』に登場する「クモテツ」なるは鉄道マニアくんたちもめっぽういい味だしてます。「線路は場所と場所を繋ぎ、人と人を結ぶ、だから電車好きに悪いヤツはいない。でも電車が唯一乗せられないものは？」という謎解きの答が胸

を打ちます。

西宮から戻り、電車好きの息子のために上越新幹線の車両基地が見渡せる家を購入。今、一日中阪急六甲の踏切が鳴るアパートに住む息子。・・・なんて、親ばか満載の文章になってしまいました。ま、順子先生ならお許しくださるでしょう。

(渡辺 郁子)

ぼくらの習慣は聖者たちのエミュレーションによってずっと貫かれてきた。ぼくらの賛美歌集は神のメロディアスなゆらぎと神に対する永遠の忍耐で鳴り響いている。予言者や救済者たちでさえ、人間の希望を確かなものにするよりは恐れとらものを慰めてきたのだともいえるだろう。人生の贈り物に対するシンプルで押さえきれないほどの満足感や神に対する忘れられないような賛美といったものはどこにも記録されていない。

(ヘンリー・D・ソロー「森の生活」)

「自分を義人だと自任して他人を見下ろしている人たち」(ルカ福音書 18 章 9 節)、即ちパリサイ人の振舞いを、イエスは繰り返し批判します。その場合に“自分を義人だと自任”するパリサイ人を、「神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされる」と“ダメ”を出すことも忘れません。

マタイによる福音書では、「ヨハネは、パリサイ人やサドカイ人・・・彼らの言った、『まむしの子らよ、迫ってきている神の怒りから、おまえたちは逃れられると、だれが教えたのか・・・』』と、言わば“敵意丸出し”で批判しています(3 章 7 節)。そのパリサイ人たちが、何よりも重んじていたらしいのは“神の義”で、たとえば「取税人や罪人などと食事を共にする」あなたがたの先生は、神の義

軽んずる許しがたいやつらと見なしにしていた(9 章 11 節)。イエスが安息日を安息日として守らないのも、許せなかったことのひとつです。「弟子たちは、空腹であったので、穂を摘んで食べ始めた。パリサイ人たちがこれを見て、イエスに言った、『ごらんなさい。あなたの弟子たちが、安息日にはしてはならないことをしています』」(12 章 1、2 節)。この場合、律法の神の義をたてに迫るパリサイ人たちに、イエスもまた神の律法をたてに反論します。“ぐうの音も出ない”くらいに。結果、パリサイ人たちは「なんとかイエスを殺そうと相談する」という具合に、その“対立”はエスカレートします。パリサイ人たちは「どうかしてイエスを言葉のわなにかけようとし」と迫り、イエスは「彼らは言うだけで実行しない・・・。重い荷物をくくって人々の方にのせるが、それを動かすために、自分では

指一本も貸そうとはしない」などとやり返すのです（22章15節、23章3、4節）。

そして、23章13、15、23、25、27、29節では「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ・・・」と、繰り返し繰り返し、その“偽善”をあばきます。そうして、偽善者と極めつけられたパリサイ人は、イエスもまた“偽善者”であったと極めつけます。「その日に（イエスが処刑された次の日）、祭司長、パリサイ人たちは、ピラトのもとに集って言った、『長官、あの偽り者がまだ生きていたとき・・・』」と（27章62、63節）。

マルコによる福音書は、パリサイ人たちとイエスが対立する場面を、そんなに繰り返し描くということはありません。例えば、「そして弟子たちのうちに、不浄な手、すなわち洗わない手でパンを食べている者があるのを見た。もともと、パリサイ人をはじめユダヤ人は皆、昔の人の言い伝えをかたく守って、念入りに手を洗ってからではないと、食事をしない」の場合のイエスの答えは、「すべて外から人の中に入って、人を汚しうるものはない。かえって、人の中から出てくるものが、人を汚すのである」となったりします。自分の立ち位置を、えぐるように向かい合う言葉の説得力こそが、イエスの真骨頂なのです。

ルカによる福音書で、イエスが“神を汚す”としてパリサイ人たちに

よって繰り返し問題にされているのは、異邦人、取税人、罪人、遊女などと席を同じくする場合です。「ところが、パリサイ人やその律法学者たちが、イエスの弟子たちに対してつぶやいて言った。『どうして、あなたがたは、取税人や罪人などと飲食をともにするのか』」と、（5章30節）。マルコによる福音書の場合、異邦人、取税人、罪人、遊女と一緒にいるイエスのことが描かれるだけですが、ルカによる福音書は、一緒にいることに「わたしがきたのは、義人を招く為ではなく、罪人を招いて悔い改めさせる為である」（5章32節）が付け加わります。と、言ってしまふことによつて、自ら“偽善”に近くなつてしまふのですが。

（菅澤 邦明）

～今月のいのり～

暑い暑い毎日、陽炎まで見えそうな気温の中、見上げた空に浮かんだ入道雲が私たちの夏を応援してくれています。

今年も、たくさんの思いと、たくさんの力がつながって、子どもたちのキャンプを行うことができました。

準備を手伝ってくれた人たち、子どもたちを送り出してくれたご家族、そしてキャンプを見守って下さった神さまに心から感謝します。

「もうちょっとここにおりたかったなあ」

帰る時にこうつぶやいた子どもの一言が、今も心に残っています。

神さま、どうかこの子どもたちの笑顔がずっと守られますように。そして、幼くしてあなたのもとへ召された命たちが天国で笑顔を見せていますように。

日本が戦争に負けた日のことを覚え、祈っています。

(大平 有紀)

“セミの大合唱の夏休み”

7月21日に1学期終了式を迎え、夏休みに入った幼稚園。子どもたちがいない幼稚園は少し寂しく感じます。でも、元気いっぱいな子どもたちに負けないくらい、精一杯鳴いているセミの声が幼稚園に響いています。夏休みに入ってすぐの7月22日、23日で年長の子どもたちは後川へ宿泊保育にでかけました。年長の子どもたちはこれまで何度か訪れたこと

ある後川。宿泊させていただいた旧後川小学校の周りには川や山があり自然がいっぱいです。そんな自然に「よろしく願いします！」とまずはお挨拶。そして、川で遊んだり、植物や虫や、周りの自然について学ぶ時間を持ちました。自然観察には、ノートルダム女子大学の菅井先生がお越し下さいました。とても楽しそうにお話してくださって、子どもた

ち、そして私たち大人も楽しい自然の世界に引き込まれてしまいました。

みんなで食べたごはんや、みんなで入ったお風呂。みんなで見上げた星空。みんなで～だと楽しさは何倍にも膨らみました。地域の方々にもたくさんご協力いただいて、豊かな時間を過ごすことができました。

24日は兵庫県立芸術文化センターで行われる『キャンディード』の前夜祭に年長の子どもたちが参加しました。『キャンディーキッズ一代記』という12番まである歌を、毎日のように楽しみながら歌っていました。そんな年長の姿を見て、3歳、4歳の子どもたちもいつの間にか口ずさんでいたりして～。いちごみるくれもんあじ～のフレーズが大好きになったみんなです。前夜祭には他の園も集まり、教会学校の子も加わりました。本番と勘違いし、リハーサルから力を出し切った～なんて人もいたほど、みんな元気よく歌って踊ってくれたのでした。

幼稚園を卒園した子どもたちとは、夏休みならでは～の時間も。

7月28日～8月1日に5年生以上の子どもたちと沖縄へ。8月4日～8月7日に小学生以上の子どもたちと後川へキャンプにでかけました。遠くへ引っ越した人も何人か参加してくれました。学校が違って、住む場所が違って、会えば何事もなく毎日

盛り上げられる子どもたち。そんな姿は、とても羨ましいです。

毎年行われる夏のキャンプでは、幼稚園時代を共に過ごした子どもたちが、少しお兄さん、お姉さんの顔を見せてくれたり、相変わらずな姿を見せてくれたり。私たち教師にとって幸せな時間です。

卒園してもこうして集まる場所があること、そしてその場所に期待しながら集まってくれるたくさん子どもたちがいることに心から感謝いたします。

8月23日から夏期保育が、9月1日から2学期が始まりました。幼稚園の生活に心を寄せて下さる多くの方々がいらっしゃることを心に留め、子どもたちと楽しみながら毎日を過ごしていきたいと思います。2学期もよろしくお願い致します。

(山崎 由貴)

すずや便り

こんにちは。猛暑、酷暑...天気予報を見ただけでめまいがしそうな日が続きますね。近頃は最高気温を見ても「今日も35度か」なんて、体温に近い数字に驚きがなくなっています。少し前まで「30度(大台)越えた!」と言って騒いでいた気がするのですが、私の「少し前」のスパンはだいぶ長くなっているようなので涼しかった夏はいつのことでしょうか。

夏休みに西宮へ行きまして、何人もの方に「読んでよ～」と声をかけてもらいました。ありがとうございます！思いがけずに文章を書く機会を与えていただいて、こんなに幸せな経験ができるとは「わが人生の偶然に感謝」です。

「わが人生～」は「関西の住みたい街ランキング、西宮北口初の首位」という新聞記事を順子先生にお知らせしたときの返事なのですが、なんて簡潔でいい一言かしらと最近お気に入りのフレーズなのです。

少し前に家のすぐそばにテニススクールができたので、軽い気持ちで入会してみました。球技には縁のなかった人生、こんなにボールを打ち返すのが大変だとは！汗をたっぷりかいて気持ちがいいのですが不完全燃焼で、動体視力がないからだわ、なんて分析してみたり。今日も当たら

なかったな～とがっくり来ていたころに丁寧な口調で私にとって分かりやすい説明をしてくれるコーチにあたりました。その日はいつになく気持ちよく打てて、週末にもテニスコートを予約するほどの気分になり、レッスン以外にもテニスをしたおかげで？次のレッスンも調子がよくいい感じ。あくまでも自分との比較なので大層なことは言えませんが、ちょっとは進歩が感じられ、コーチからも「慣れてきましたね」と嬉しい一言です。まだまだ相手に申し訳ないので家族対戦専門ですけどね。

ここまで未知の(というより苦手)分野に挑戦してみて、できない人を怒っちゃいけないということを実感しました。できないのは本人が一番わかっている、わかっているけどなかなかできない、よくある話ですがその通り。針の先ほどでも進歩があればそれを認めてあげる、それだけで、ちゃんと見ていてくれる！という思いが頑張る気持ちにつながっていくのだと思います。

ちょっとテニスを始めたつもりがこんなことまで考察してしまうとは～余りに下手すぎると自信もないですからコーチの何気ない一言や視線ですら、ぐさっとささってしまうもの。いつも変らぬ丁寧な物言いのあ 9

りがたみを痛感して、日ごろの我が身を振り返るいい機会になりました。人生の偶然に感謝ですね。

(富家 香麻里)

みかん便り

こんにちは。7月も終わって暑くなってきましたね。7月は忙しさで休まる日が無くて大変な月でした。良いこともまったく起きなくて。。。まあ、人様の愚痴ほど聞いていて面倒なものは無いと思うので、愚痴は終わりです(笑)

7月のはじめ、教員免許取得のために5日間、介護等体験に行ってきました。松山乳児院にお世話になったのですが、それはそれは濃い5日間でした。とてもしんどくて辛かったとも感じましたが、それもまた違う感じで、とても不思議な5日間だったと思います。

行き先を乳児院に選んだのは家から近かったからというのと、なんとなく小さい子のほうが楽な気がしたからで、深くは考えていませんでした。体験当日、乳児院という先入観はあまり無く、緊張しながら向かいました。いざ教室に入ってみるとすぐに3～5歳の子どもたちが駆け寄ってきてくれてほっとしたのを覚えています。仕事内容はお風呂の補助や食

さわりのないものです。普通に何も考えないで過ごしているとすぐに1日が終わってしまうくらい単調なものでした。はじめの2日間ぐらいは本当に単調で、子どもたちを抱っこし続けて終わるようなものでした。夢の中でも「お兄ちゃん！抱っこ！」と子どもに言われて朝起きると肩が凝るほどです。3日目にある先生に言われました。「うちの子は周りの大人の表情をすぐ感じ取る子ばかりで、それはやっぱり昔の体験が大きいんですね。小さすぎて覚えてないような子でも、冷たい態度をされると震えがとまらなくなる子もいます。だからお兄さんがこの子達にいっぱい甘えられてるのは自信を持っていいと思いますよ。お兄さんの笑顔が嘘の笑顔じゃこんなにみんな寄ってきませんしね。あと3日間頼みますね。」

この言葉がなかったらずっと受身でこの体験を終えていたと思います。短気で飽き性で自分勝手に甘えたな性格をしているので2日目が終わった頃には半ば冷め切った感じになっていた部分もありました。とにかく3

日目からは1人1人どんな子なのかじっくり見ていくことにしました。泣き虫な子、わがままな子、甘えん坊な子、すぐに暴力を振るう子、人見知りな子。どの子も自分のやり方で僕にアプローチをしてくれてるのがわかりました。はじめはすぐちょっかい出してきて、顔を本気で殴ってきたり蹴ってきたりとイライラする子もいましたが、それは僕に相手をしてほしいという事なのかもと気づいたのも3日目からです。実際のところはわかりませんが、相手をし始めると無邪気に笑って一緒に組み木に誘ってくれたりしてくれたのでそんなものなのかもしれないと思うことにしました。

最終日、終わりの時間になりました。午後3時なのでおやつの準備に追われて周りの先生方はてんでこ舞いでした。何か言葉をくれるかなと甘い期待をしていましたが実際は何も無く、子どもからも「バイバ~イ」といつも通り言われて全体験を終えました。結構切なかったです(笑)自分がしたことを振り返ると、遊ぶこと意外は特に何もしていませんでした。反省です。ラスト2日で2人の子に「お兄ちゃん大好き」と言われました。そんなに好かれるような事をしたつもりはありません。自分のどこを好いてくれたのかもわかりません。でも、自分の何かを好いてくれる子がいたという事が今回1番嬉しかっ

たです。そして1番の経験は周りの人の励ましや応援が無ければやる気を出せない自分がいるという事を再確認させられたこと。自分の欠点をもっと見つめないとこれ以上成長できないし、自分を見つめることができない人が教師にはなったらいけないと思います。めんどくさがりな自分に気づいているなら直す努力をしないといけないですね。やってみます。自分をもっと見ていったら自分のどこを好いてくれていたのかもわかりますよね。きっと。

9月は共同キャンプのことでも書こうかなと思います。楽しみです それではまた来月

(河村 高志)

2010年8月 あんなこと こんなこと...

教会学校から

《7月の活動報告》

7月4日(日) かき氷を食べよう

7月11日(日) キャンプ・ソングを歌う! Part1

7月18日(日) プール遊び

7月25日(日) キャンプ・ソングを歌う! Part2

7月28日(水) ~ 8月1日(日) 公同子ども沖縄キャンプ

8月4日(水) ~ 8月7日(土) 公同子ども後川キャンプ

教会学校は8月1日、8日、15日、22日は夏休みになります。
29日の“おみやげ&おみやげ話パーティ”で2学期が始まります。

《9月の活動予定》

9月5日(日) 津門川川掃除大会 / ひらき・まつり

9月12日(日) 後川 DAYS! 後川クイズ&デカンショ節を踊る
/ 2010LALALAミュージシャンコンテスト予選 ~ 後川の子どもたちを招いて
於: 西宮公同教会礼拝堂

9月19日(日) 鹿児島・川内教会のことを知ろう

9月26日(日) “星ころ”を作る

大切な贈り物・津門川 9 5

“ 津門川しらべ ”

つとがわ 編集後記

6月中旬に、何かの拍子で少し腰を痛め、それが"少し"だったので、たいした養生もしないまま、そのままにしていました。6月下旬の淡路島、平安荘の草刈りを頑張っていて違和感があり、7月中旬には重い椅子を持ちあげた時、ピクッと痛みが走りました。7月下旬(21日、22日)の幼稚園の宿泊保育の二日目の早朝、旧後川小学校校庭から臨む大野山に登って下りてきてすぐ、うつむくのが難しくなり、しばらくして激痛で立っているのも我慢できなくなりました。それなのに、車を運転して帰ることになり、やっとの思いで接骨院に飛び込みました。

沖縄には行くまでにはと思っていた治療は、結局間に合わないまま出発することになりました。床でごろ寝したり、車を運転したり、子どもたちを乗せたカヌーを漕いだりしましたが、一進一退の状態で沖縄から帰ってきました。二日おいて、後川のキャンプでしたが、心づもりをしていた二回山登りの為、現地では"安静"を心がけていました。登るのはともかく、下に下りてくるのは、体重・バランスを取る為、どうしても腰に負担がかかります。山の木で作った杖を最大限使って下りてきて、二日目の朝、もう一度山登りに挑戦しました。登りはともかく、少なからず苦労して下りることになりました。

22日に、立つのも歩くのも苦痛の状態が始まって、4泊5日、3泊4日の、少なからず厳しかったキャンプを終了することができたのは、それが子どもたちと過ごす時間だったからかも知れません。頑張るのではなく、それがとりとめのない言葉を交わし合う、さり気ない時間として過ごしたからだと思っています。重いリュックを運ぶのを、子どもたちが交代で手伝ってくれて負担を軽くしてくれたりしたのも、大きな助けになりました。

(K)

少し前から手ぬぐいにはまっています。以前友人が集めているのを見ながら、私は絶対はまらない!と思っていたのに~です。

手ぬぐいにもいろいろあって、それだけで一枚の絵のようになっているものも。そしてこの夏、ずっと訪れたかった京都の雑貨屋さんにて、手ぬぐい展のようなものやっていて、そこでまた新たに会ってしまったのです。あれも、これも~と、つつい。

首にまいたり、汗をふいたり~と昔からの使い方はそうだったのでしょうが、見て楽しむのも素敵です。季節ごとにいろいろ楽しませてくれる手ぬぐいに夢中です

(I)

かなり汗かきな私。昔からあまりクーラーとは縁がなかったので、代謝がいいのでしょうか...。朝掃除をしているだけで頭からびしょ濡れで、「シャワー浴びたの!?!」なんて言われるほど。電車の中などでは一人で汗と闘ってい

て、少し恥ずかしいのです。涼しい顔をしている人が羨ましい!!働き始めてからさらに汗かきになった気が~...。夏は大好きだけれど~いつまでこの暑さは続くのでしょうか。

(Y)

2002年、友人に誘われて出かけた芦屋市立美術館、この時初めて奈良美智さんの作品に出会い、何とも言えない子どもの表情、立体作品にくぎづけになったことを覚えています。この時から奈良さんの作品が好きになり、作品を見たり、グッズ探しをしたり、色々調べていくうちに、青森県にある県立美術館に作品が常設展示してあるということを知って、行きたいなあとずっと願っていました。

その願いが叶った今年の夏!じっくりと作品を見ることができ、当時は買えなかった作品集も購入することができました

あの時、友人に誘われなかったら奈良さんの存在を知ることがなかったかもしれない。そんなことを考えながら、美術館でのひと時を過ごしました。

(N)

The only safe ship in a storm is leadership.

You don't drown by falling in the water.

You drown by staying there.

「困った時に乗るといい船ってなんでしょうね」そんな問いかけにそれこそあまり融通のきかない、しゃれのわからない者とあって真剣な顔で考えていると相手は苦笑。そんなに悲壮な顔をしないでと言いつつ教えてくれた諺でした。困ったことがあったら'リーダーシップ'にのっかってしかも自分が努力もするというこらししい。溺れないためにはどうしたらいいか考えなさい、勉強もしなさい、あなたがそこにとどまってるから溺れるんだよと。

一日のうちに老眼鏡を探すこと?回。百均も含めてかなりの数をあちこちに置き対処するもののかけたまま寝たり、上に物を重ねて歪めたり、なぜかケースだけ持ち歩いていたり、この手の話題が多すぎる。弦を曲げたり折ったり、ぶつかけたり。近くにあるメガネ屋さんにはどれだけお世話になっているか。探すのは大変だと首からぶら下げることに。ところが動きが激しいから傷む。それでメガネ屋さんのおすすめで遠近両用にしていつもかけておいてはということになった。ところが階段などの昇降の折に下を見ると感覚が狂ってうまく歩けないので解決にならず。で、相変わらず眼鏡を探すこと多しの日々。後者が書きたかった近況でした。

(J)